

会議録

会議の名称	平成30年度第3回行田市子ども未来審議会	
開催日時	平成31年3月1日(金) 開会：午前10時00分 閉会：正午	
開催場所	行田市産業文化会館2階 第2会議室	
出席者(委員) 氏 名	馬橋正芳、馬場恵喜子、大野真理、平塚由紀、江森弘安、桑原宏安 望月昌幸、岡田安弘、堀内由紀、大澤栄、町田祥子	
欠席者(委員) 氏 名	横田康介、老本理恵、出井宏美、松島弘	
事務局	子ども未来課 課長 新井康夫、子ども未来推進幹 上野浩二、 主幹 吉田秀和、根岸正臣、主査 綿貫友和 地域計画株式会社 企画計画室長 大谷幸弘	
会議内容	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 第二期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について (2) 利用定員の設定について (3) その他 4 閉会	
会議資料	(資料名・概要等) 次第 資料1 子ども・子育て支援に関するアンケート調査ご協力をお願い (未就学児用) 資料2 子ども・子育て支援に関するアンケート調査ご協力をお願い (就学児用) 資料3 行田市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書 資料4 社会福祉法人瑞穂会 太田保育園利用定員の設定について 資料5 社会福祉法人清陵会 幼保連携型認定こども園移行に伴う利用 定員の設定について 参考資料 平成31年度子ども未来審議会等スケジュール	
その他必要事項	傍聴人なし	
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成 年 月 日	印

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	1 開会
会長	2 会長あいさつ
	3 議事
	(1) 第二期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について
会長	はじめに、事務局からの説明を求めます。 委員の皆さんからの意見等については、事務局説明後、一括してお受けするので、説明途中での発言をお控えするようお願いします。
事務局	＜事務局説明＞ ・ニーズ調査のアンケート内容を前回会議の意見に基づき削減したこと、校長会にてアンケートの実施について説明し、アンケートについて質問された際の対応を依頼する等したことを報告。 ・アンケート結果について、未就学児は1,600件配布して、975件回答、回答率は60.9%、就学時は1,000件配布して、659件回答、回答率は65.9%という報告。 ・資料3「行田市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告」の内容を説明。
会長	説明が終了しましたので、皆様方にご意見をお伺いしたいと思います。
大野委員	やはり想像していた通りだと思いました。この中で注目すべきは「0-3歳児の問題」と「学童保育の休みの期間の利用」についてだと思います。また、細かな情報をお聞きしたいのが、「就労の時期として、一番下の子が何歳になった頃か」という部分の細かなデータというものがあるのならば教えていただきたいと思います。 子どもたちが学校や保育園に行っている平日の10時から16時までの間で、仕事のニーズというものは行田市内にあるのだろうかということも、今後計画の方に反映させるとともに、企業者としても取り組んでいかなければならない部分ではないのかと思います。
平塚委員	幼稚園での会議の際にアンケートについて他のお母さん方に聞いてみたところ「とても長かったが、頑張って回答した」との答えをいただいたので、そのことも踏まえて、計画へ反映していただけたらと思います。

江森委員	次に学童保育に関してですが、同じ学校内の学童保育室に入室できず、異なる学校の学童保育室に入室している場合、お迎えがたいへんなため、できれば同じ学区の学童に入れることはできないか、という声も多く聞いたのでご報告させていただきます。 それと、学童保育の内容に関しては先生によるらしく、ソロバンや将棋をやっているところもあれば、外遊びやテレビを見ているところもあると聞いたので、内容も一律にできたらよいのではないかと思います。せっかく子どもがたくさん集まっているところなので、囲碁なり将棋なりやっていただけると預けている親としても、ただ預けているわけではなく、楽しいことをやって待っていてくれている、と思うと良いと思うので、細かい内容となってしまいますが、学童保育の内容について教えていただけたらと思います。 冒頭アンケートを実施するうえで、校長会のお話をいただきましたけれども、本アンケートの結果について校長会への開示といったものはあるのかどうか、というのをお聞きしたいと思います。 また、児童虐待について、「関心がない」とお答えしている方がいらっしゃることに私としては疑問を感じていまして、ある意味これが実態であるとするならば非常に問題であると思います。そういった方々に対して、どういうサポートをしていくのかを伺いたいと思います。
望月委員	アンケートの結果を見るだけでも時間がかかりましたので、まして回答する方はもっと大変だったと思います。このアンケート結果を、計画に移すというのは個人的にはすごく難しいと思いましたので、頑張っていきたいと思います。 もう一点は、虐待の問題について先程意見がございましたが、やはりデリケートな問題でもあります。最近よくあるのが、虐待だと思わずに「しつけ」として行っているということ。新聞やニュースで取り上げられますが、本人は虐待だと思ってないが、それが虐待であるといった案件もあるので、慎重に扱った方がいいというのは個人的に思います。 次に委託された業者の方にお伺いしたいのですが、アンケート結果から行田の特徴が出ているところがあればお聞きしたいと思います。
岡田委員	学童保育の利用が増えているということで、学童保育室支援員に対する処遇改善や環境の充実にもう少し力を入れていただきたいと思います。社会福祉協議会では11か所の学童保育室を運営している中で、毎日のように子ども同士の小さなトラブルや事故が発生しています。支援員の数が少ないことや目が行き届いていないのが原因ではないのかということで、支

堀内委員	援員の数を増やすなど対策を考えていただきたいと思います。 お子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人はいるのか、といった質問で、ほとんどの方が「いる」や「ある」と回答していますが、問題なのは「無い・いない」と回答された方であり、この方々について具体的にどういったフォローをしていくのか、ということをおもいました。 もう一点気になったのが、「児童虐待」についてです。児童虐待に関心がないという回答が多く、こちらに関しても、具体的に対策などを考えてやっていかなければならないと感じました。
大澤委員	資料3の回収率の件で、6割以上を確保できたといったところは非常に安堵してしまして、これだけのものができれば妥当性が検証できたということでもよかったと思います。 なお「地域」に関するところで、いわゆる市内でも「都市部」と「農村部」とで結果も違うものになるでしょうから、もし可能であれば、将来的にはそういった形で調査するのも良いのではないかと思います。 資料3の間8を見ていただくと、「子供のしつけの方法」ということで、27.2%の方が悩んでいるということが数値に出ております。ちまたでも学問的にもいわれていますが、叱ることができない親、また、叱られたことのない子ども、というのが多くなっています。日本は叱ることがいけないことであるかのようになっていますけれど、しつけの方法についても、何か講座を開催するとかしないといけない時期にきているのかなと思います。 また、児童虐待のところで気づいた事ですが、虐待と「わかるもの」と「しないこと」は違うものだと思います。本アンケートは意識調査という形ですが、人間には表と裏の顔があり、表向きはとても真摯な対応をしている方が裏ではとんでもないことをしているといったことも多くて、最近起きた事件もありますが、そのことも無駄にしないでいただきたいと思います。
町田委員	アンケートの回収率が高くて安心したところですが、おそらく皆さんの広報でその成果が出たと思います。私自身もお声がけしたり、逆に聞かれたりしたこともありました。また、余談ではありますが、督促状が期日内に届いてしまったというお話をいただいて、思わず謝ってしまったのですが、そのところは気を遣っていただきたいと思います。 虐待の件なのですが、皆さん虐待への意識が高くなってきているのですが、「子どもだけを家において外出する」という部分がとても引っかかっていて、その部分のみ親御さんの意識がとても低いです。「病気の際に子ども

	もだけで留守番をさせた」というのが何パーセントかあり、何もなかったからよかったのかな、とも思うのですが、そういう保護者の意識をもう少し高めていける方法をなにか考えていただければと思いました。 自由記述の設問が二つありましたが、丸を付けるよりも自由記述は手間のかかるもので、すごく貴重なものだと思います。内容に関しては重複している他、誹謗中傷もあったかとは思いますが、子ども未来課だけでなく、市全体で共有していただければよいのではないかと思います。
馬場委員	お母さん方の一番の悩みが「しつけの仕方」であるということに注目いたしました。虐待への関心を皆が持つと、逆に叱れない人も出てくるのではないかと思います。叱られることは子どもにとって嫌なことでも、それがバネになることもありますし、自信をもって叱るということは、親としても成長しますし、子どもの成長にも必要なのではないかと思います。 また、相談できる項目に、友達や身内といったところの割合が多くて、相談できる場所があることに安堵したところではありますが、相談できない方をフォローアップしていくことが大切だと感じました。
会長	委員の皆様ありがとうございました。 叱ったり、虐待に対応したりする時は、一人ではなく複数で対応すること、みんなに見守ってもらい、みんなに声かけすることが重要だと思います。 それでは事務局から回答をお願いします。
事務局	はじめに、大野委員からのご質問、「就労の時期として、一番下の子が何歳になった頃か」につきましては、資料3質問の下部に表が入っておりまして、回答者数190名のうち、「1歳の頃に就労したい」が10名、「2歳」の方が13名、「3歳」の方が53名、「4歳」の方が35名、「5歳」の方が9名、「6歳」の方が16名、「7歳以上」の方が50名で、無回答が4名でした。 皆様方からご意見をいただきました学童保育室に関してですが、「中々定員に余裕がなくて入れない」という状況につきましては、市も認識しています。現在も、一つの学童保育室の拡張工事をしているところですが、その他の学童保育室につきましても、今後、このニーズ調査に基づきまして、適切に準備の方を進めていきたいと考えています。また、学童保育室の支援員につきましても、人が集まらないということもうかがっておりますので、処遇改善を検討していきたいと思っています。 虐待に関心がないという方が若干増えているのではないかとということですが、保護者の「自分のところではないからいい」等といった周

	園への希薄さが表れている部分も見られますので、そこにつきましては、更なる啓発活動を検討していきたいと思います。 なお、本アンケート調査に関しましては、他部署に対する情報提供、校長会ですとか教育委員会、庁内の様々な部署に報告をさせていただきたいと思います。
(地域計画 大谷)	行田市と他市町の調査結果を比較してどうかというご質問ですが、傾向が逆転しているようなものではありませんでした。ただ、母親の就労希望につきましては、前回からの増加の割合が他市町と比べて小さいように思われます。フルタイムでの就労希望よりもパートやアルバイトでの就労を希望されている方が多いように感じました。 また、これこそ地域性なのかもしれませんが、行田市は認定こども園への転換がこれからということで、それに関する回答割合が他市町と異なっていると思います。
事務局	まとめさせていただきます。 委員の皆様も回収率向上へのご協力ありがとうございました。 就学児の調査については、前回学童保育室利用者を通じて配布したため、今回の無作為での配布と対象が異なり比較が難しくなったものもあります。その点を含んで、結果を見ていただければと思います。未就学児については、そのような問題はありません。 自由記述については、現在内容を整理しております。できる限りまとめながら紹介したいと思っています。 ご意見のありました督促状の件に関しては、「送付のお礼」と「出してない人は出してください」という両方の意味を持つお礼状兼督促状を締め切り前に出しています。委員以外の方からもご意見をいただいておりますので、適切に次期計画時の参考にさせていただきます。 また、量の見込み等は今回のニーズ調査からですと、中々見えてこないのですが、来年度の計画策定の中で、人口推計等をかけ合わせて算出していきたいと思います。 繰り返しになりますが、この調査結果は、子ども未来審議会の委員会の皆さまをはじめ、小学校長さんにも直接配布させていただくとともに、公共施設に関しては「配架」という形で誰でも閲覧できるようにしておく方向性で考えておりますので、よろしくお願いします。
会長	ありがとうございました。ただいまの事務局のほうでご説明させていただきましたが、宜しいでしょうか。 (異議なし)

会長	それでは次の議題について説明させていただきます。事務局の方で説明宜しくお願い致します。
事務局	(2) 利用定員の設定について ＜事務局説明＞ ・資料4「社会福祉法人瑞穂会 太田保育園利用定員の設定について」の説明 ・資料5「社会福祉法人清陵会 幼保連携型認定こども園移行に伴う利用定員の設定について」の説明
会長	それではご意見の方伺いたいと思います。ご意見のある方は挙手をお願い致します。
望月委員	社会福祉法人瑞穂会さん、太田保育園さんの利用定員の設定についてですが、平成28年度から31年度までの資料が4月1日付けなのはなぜか、その理由をお聞かせください。 次に社会福祉法人清陵会さん、行田保育園さんについてですが、認定こども園に移行することは問題ないのですが、各保育園は3号認定（0～2歳児）のお子さんへの対応を最優先としております。市役所からもなんとか預かってもらえないかという連絡もあり、現実として、入所できない子もいると個人的には認識しています。 その中で、3号認定の量をいかに増やすかは行政の役割だと認識しておりますが、そういった働きかけを行田保育園さんにされたのか、お伺いします。
会長	ありがとうございます。それでは、事務局の方で回答よろしくお願い致します。
事務局	太田保育園さんの資料、利用定員を減らすにあたってもある程度基準が必要だと認識しております。その中で、利用定員は120パーセントの枠を考慮するという事で、4月1日を基準に設定いたしました。参考に、平成30年の4月と直近の31年の2月で8人増えています。例年8～10人くらい太田保育園さんは年度末にかけて入所人数が増えています。そういったものも考慮させていただいてものです。 行田保育園さんが認定こども園になるにあたって、基本的には施設整備をしないという中で、既存の園舎のスペースについて1号認定をいれた、ということです。また、1号認定を入れた理由としては、保護者の就労状況によって慣れ親しんだ園から退園しなくてもよくするためです。

	なお、行田認定こども園さんにつきましては、平成 31 年 4 月入所は 3 名ではなく 6 名をお願いし、増やしていただいています。保育士の配置の問題もありますし、園舎の面積の問題もありますので、すべてクリアしていただいた中での対応になってくるところではありますが、そういった点は市としてもお願いしています。 今回の行田認定こども園さんは、保護者の就労による転園を避けるために 1 号認定を加えたということで、2 号、3 号の保育認定については現行のままという形になっています。
望月委員	来年度の計画策定にあたり、人数についても誤差が生じるものと思います。方向性が異なると、計画の意味がなくなりますので、そうしたことになるようにするべきだと思います。 また、定員の基準ということであれば、年間の平均値としたほうがよいのではないのでしょうか。
事務局	ご意見は参考にさせていただいて、今後はどちらのほうがいいか現実的か検討したいと思います。
会長	よろしいでしょうか。
会長	(異議なし)
事務局	それでは、次の議題参りたいと思います。事務局からご説明をお願いします。 (3) その他 <事務局説明> ・参考資料「平成 31 年度子ども未来審議会等スケジュール」についての説明。
会長	以上で、本日の議題が全て終了となりました。 円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。 確認とはなりますが、委員の皆さま宜しいでしょうか。
会長	(異議なし) 以上で、本日の議題は全て終了致しました。これで議長を退任させていただきます。円滑な議事進行にご協力くださり、ありがとうございました。 進行を事務局にお返しします。

事務局	4 閉会 本日は長時間にわたり、慎重審議いただきまして、ありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、平成30年度第3回行田市子ども未来審議会を閉会といたします。
-----	--